

アカハナグマ (*Nasua nasua*) から得られたハジラミ類

近本 翔太¹⁾・伊藤 このみ²⁾・村上 翔輝²⁾・野間 康平²⁾・
伊東 隆臣²⁾・藤田 かおり²⁾・浅川 満彦¹⁾

¹⁾ 酪農学園大学 獣医学群 獣医学類 感染・病理学分野 ²⁾ 大阪・海遊館 (Osaka Aquarium KAIYUKAN)

はじめに

アカハナグマ (*Nasua nasua*) は南米原産のアライグマ科の哺乳類で、エキゾチック・ペットとしても一般家庭に飼育されることもある。しかし、今回、水族館で飼育されたこの種で、ハジラミ類の濃厚寄生を経験したので、簡単に紹介をする。

● 材料と方法

2015年4月、大阪・海遊館で飼育・展示されていたアカハナグマ雌成獣で、掻痒感を示す1個体が、その後、心不全で死亡した。その剖検時、腋窩部に外部寄生虫の濃厚寄生が認められた(図1)。そこで、30虫体を採集し、70%エタノール液で固定した後、ホイヤー氏液で透徹・封入された。これらについて光学顕微鏡下で形態観察し、顕微鏡描画装置(オリンパス、BH-2)により

体部を描画し、各部位をエリアカーブメータ(牛方商会、X-Plan 380d III)を用い測定した。証拠標本は酪農学園大学野生動物医学センターWAMCに保管された(標本番号WAMC-AS 16092)。



図1. 大阪・海遊館にて飼育・展示されていたアカハナグマに濃厚寄生していたハジラミ類（左：寄生状況、右：同部拡大）

● 結果と考察

その結果、得られた虫体はケモノハジラミ類で、雄 12 虫体および雌 18 虫体が確認された（図 2）。主要な測定値（単位 mm：雄、雌の順で記す）は体長 1.3、1.2：頭部（長さ×幅）0.4 × 0.7、0.4 × 0.7、胸部（長さ×幅）0.2 × 0.4、0.2 × 0.4 および腹部（長さ×幅）0.7 × 0.7、0.6 × 0.6 であった。ハジラミ類が一般に宿主特異性が高いことを鑑みると、本種は Price ら（2003）¹⁾ が記述している *Neotrichodectes gastrodes* と考えられるが、原記載論

文は 19 世紀のものと同く、入手が困難であったこと、また、再記載論文も見当たらないことから、比較作業は未完了である。ハジラミ類は体毛を摂取するが、濃厚寄生した場合、稀に宿主の皮膚を齧る（かつ、二次的に血液も摂食）ことも知られているようなので注意をしたい。なお、本症例を契機に同居個体も調べたところ、同じようなハジラミ類を確認したので、セラメクチンを投与、現在までのところ、ハジラミ症の発生は認められていない。

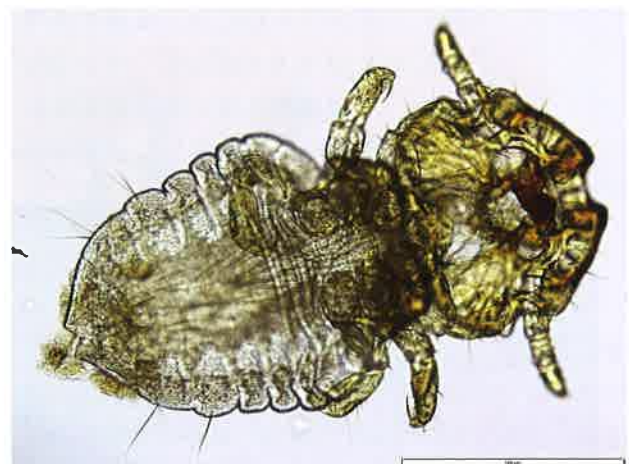


図 2. アカハナグマから得られたハジラミ *Neotrichodectes gastrodes* と考えられる成虫（左：雄、右：雌）Bar=500 μm

【参考文献】

- 1) Price, R. D., Hellenenthal, R. A., Palma, R. L., Johnson, K. P., Clayton, D. H. 2003. The Chewing Lice, Illinois Natural History Survey Special Publication 24, USA: pp. 501.